

生活応援・地域復興

第25号
1996.3.5

救援ニュース

都市生活現地救援本部
西宮市津門西口町7-3
電話：0798-36-6679

西宮支部であいのネットワーク

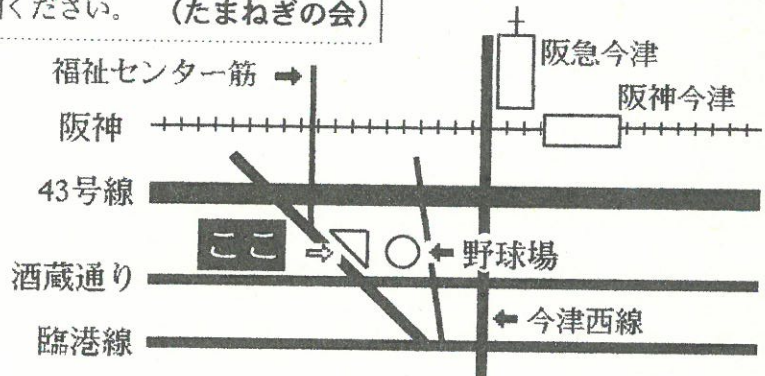
「たまねぎの会」が発足しました

「都市生活の生き方とつながりを生かして、組合員と地域の人々の中に、また組合員間に、助け合い交流活動の輪を広げていこう」、そんな呼びかけを受けて、15名の登録メンバーが集まりました。さらに4月からの参加希望者も集まりつつあります。

2月20日、発足よびかけ有志たちで、第1回企画会が開かれました。メンバーは皆、「都市生活」大好き人間たちです。その場で、まず、地域復興への助け合い交流活動として、仮設交流会を行っていき、徐々にパターンや組織をつくりあげていこうということになりました。少しずつ復興に向かっていく市街地に比べて、仮設住宅の中の独り暮らしのご老人や障害をもつ方々へのサポートは、まだまだこれからの課題です。生協活動との接点で、何か役立つことがあるのではないのでしょうか。「息のながい、無理のない自主的な組合員活動」——とにかく「楽しくて、為になって、役に立つ」がモットーです。

支部活動そのものが壊滅的な打撃を受けた西宮支部にとって、「地域への救援活動」か、組織の再生優先の立場から批判的に受けとめられる側面をもつことも、また、実際に無理は決してできないことも、ネットワークのメンバーはよく理解しています——でも、いつの日か、このささやかな活動の輪が組合員同士の助け合い交流活動としても役立つ、「ワーカーズ」や「組合員間サポートシステム」へと育てていけば——、そんな思いで活動を始めま

す。「たまねぎの会」の第1回目は右の通りです。どなたでも自由にご参加ください。（たまねぎの会）



津門住江公園仮設住宅地図

現地救援本部 新(?)スタッフ紹介

生活協同組合エル・コープ
新倉真二
(某大学某部で「いかに」)

エル・コープ(エリア：京都府南部)から現地救援本部に派遣されて4か月、研修期間は3月20日までということになっていましたが、さてどうなるか? 仮設住宅での実験共同購入に向けた具体的な詰め段階に入ってからあと1か月、何ができるのだろうか悩んでばかりいる毎日。そんな私に活力を与えてくれるのは、やはり毎夜のシンポジウム*。現在までの研修の最大の成果はシンポジウムの重要

カレー交流会
“いっしょに作ろう!
いっしょに話そう!”
ところ 西宮市津門住江公園仮設住宅
とき 3月14日(木)午前10時集合
内容 カレーライスの炊き出し
青空市(都市生活消費材)
問い合わせ先: 渡辺 0798-26-3973
吉田 0798-33-5493

性の再認識にあるのではないかと考えている今日この頃、みなさん如何お過ごしでしょうか?

震災からの復興はハードもソフトもまさにこれからというところですが、私も昨年12月に三十路をむかえたところ発展はこれから、素敵な生協「都市生活」の組合員さんたちと現地救援本部の懲りない面々に囲まれて微力を尽くしたいと思っています。

* 編集者註: 「シン」=共に、「ボシス」=飲む、というギリシャ語を語源に持つ言葉。シン+ボシス→シンポジウム=宴会。【在野の研究者(古典芸術論)にして音楽家の川島三夫氏の御教示による】